

令和6年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

四日市市地域公共交通活性化協議会 （四日市市）

平成26年7月7日設置

令和5年2月28日 四日市市地域公共交通計画策定
（計画期間：令和5年4月～令和15年3月）

令和6年12月26日 四日市市地域公共交通計画改定
（計画期間：令和5年4月～令和17年3月）

評価対象の地域公共交通確保維持改善事業

- ・地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

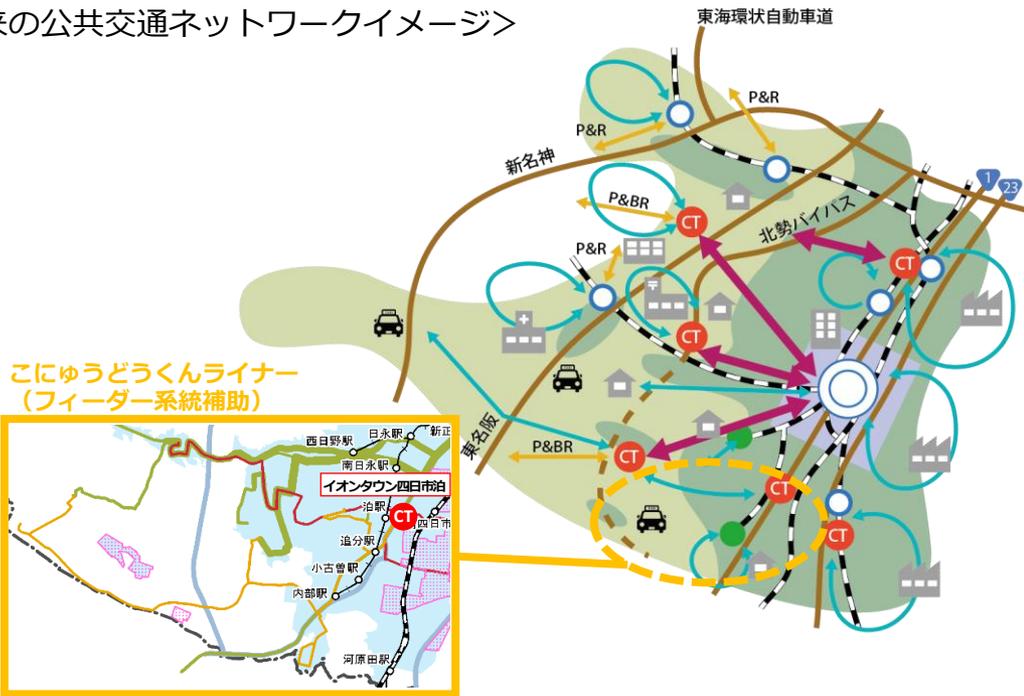
1. 【Plan】 協議会等が目指す地域公共交通の姿

＜将来の公共交通ネットワークイメージ＞

四日市市の概要

人口：306,725人
 (令和6年11月1日現在)
 鉄道路線：7路線
 バス路線：26路線

35駅を有する鉄道網を軸として中心市街地を基点に、主に郊外部の住宅団地や産業拠点に向けてバス路線網を形成している。



四日市市地域公共交通計画の概要

基本方針	目標	目標① 公共交通利用の促進 各種利用促進策を展開することで、市内の公共交通全体の利用者数を維持する
		目標② 中心市街地への公共交通での来訪促進 各種利用促進策の展開や四日市バスターミナルの整備を進め、中心市街地への来訪を促進する
		目標③ 市内の公共交通ネットワークの確保 市民が便利に安心して利用できる公共交通ネットワークを確保することで、公共交通の徒歩圏人口カバー率を向上する
		目標④ 運輸部門の脱炭素化の促進 環境に配慮した各種施策を展開することで、運輸部門の二酸化炭素排出量を削減する
		目標⑤ 地域公共交通に対する市民満足度の向上 公共交通に関するわかりやすい情報提供や、四日市バスターミナル及びコミュニティターミナルなどの交通結節点整備の推進など、公共交通サービスを充実することで、公共交通に対する満足度を向上する
1. 「誰もが使いやすい交通手段が整い、次々と新しい人が訪れ、新たな出会いが生まれるまち」を支える公共交通の維持・活性化		
2. 便利で安心して利用できる持続可能な地域公共交通網の構築		
3. 日常生活の中で地域公共交通を利用したくなるサービスの提供と雰囲気づくり		

2.【Do】 目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

★こにゅうどうくんライナーの利用促進 (地域内フィーダー系統)

こにゅうどうくんライナーに乗って、商業施設内で健康体操や買い物等を楽しんでいただくツアーを開催。

●実施結果

実施日：令和4年11月 ①15名参加 ②8名参加
令和6年3月 4名参加

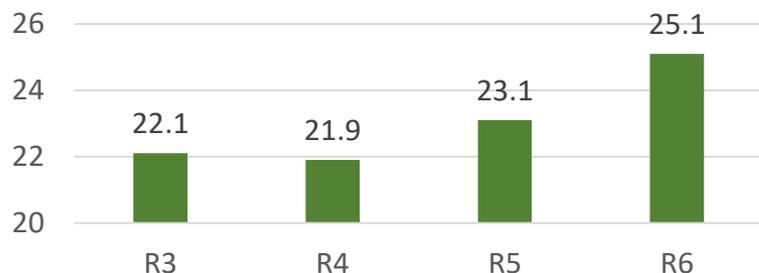
«参加者の声»

「地域の方と交流ができてよかった」など

●結果の考察及び今後の展望

上記以外にも、運行開始以降、利用啓発を行っており（隣接する他市への周知チラシの配布等）利用者数は増加傾向である。

こにゅうどうくんライナー 日利用者数（人/日）



利用促進イベントについて、内容や周知方法を工夫し、より多くの方に参加いただけるよう引き続き実施する。

●公共交通ネットワークの中での位置付け

市街地内の交通空白地域、市街化区域縁辺部の住宅団地、郊外部において、主に移動制約者が身近な生活に必要な外出を支える

●地域間幹線系統（四日市平田線）との接続状況

概ね20分以内で接続できるダイヤを設定。
結節点となる「イオンタウン四日市泊」停留所の待合室は冷暖房完備

四日市市デマンドタクシーの運行

市街化調整区域の交通空白地域にお住まいの70歳以上の方を対象に、タクシーの割引券を配布する「四日市市デマンドタクシー」の運行を令和3年4月から開始し、移動手段の確保を図っている。令和5年11月に実施したアンケートを基に、令和6年4月より外出機会の確保や利便性を向上させるため、利用要件の一部見直しを行った。

●実施結果

・利用登録者数の推移

	令和3年度※1	令和4年度	令和5年度	令和6年度※2
登録者数	110人	155人	201人	226人

※1 令和3年10月～令和4年3月の6カ月間

※2 令和6年4月～令和6年11月の8カ月間

●結果の考察及び今後の展望

見直しを実施したことで、より多くの方が利用していただいているか、利用状況について分析をしていく。

EVバス及び連節バスの運行

EVバスについては、令和5年4月より三岐鉄道(株)が導入し、現在2台が運行している。連節バスについては、令和4年4月より三岐鉄道(株)が1台導入、令和6年4月より、三重交通(株)が2台導入し、運行している。

●実施結果

・三岐鉄道(株)がEVバス2台を導入したことにより削減された年間二酸化炭素排出量

ディーゼル（2台） 29,207.808 kg-CO2/km



EVバス（2台） 0 kg-CO2/km

●結果の考察及び今後の展望

今後、市の補助金を活用して、令和6年度内に、三岐鉄道は3台目、三重交通は1台目のEVバスが納車予定である。今後、EVバス、連節バスの追加導入により、二酸化炭素の排出量の更なる削減が期待される。

2. 【Do】 目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

四日市市運転免許証自主返納支援事業

令和6年4月1日以降に運転免許証を自主的に返納された方を対象に、交通系ICカードを交付し、公共交通への利用転換を図っている。

●実施結果

交付数：518枚
(令和6年11月末時点)

・利用者の声

「公共交通機関を普段利用する機会があるので、申請してよかった。」
「さっそく使ってみようと思う。」等

●結果の考察及び今後の展望

今後も事業を推進することで、交通事故の発生などを抑制し、自動車から公共交通への転換を推進する。

年齢を問わず、自動車の運転に不安を感じる方に対して、交通系ICカードを交付することにより、自動車から公共交通への転換を促し、交通事故防止を推進する。

運転免許証の自主返納を支援します

令和6年6月3日(月)から申請受付開始



令和6年4月以降に、運転免許証を自主返納された方を対象に、交通系ICカードの交付を始めます。

対象

(以下のすべてを満たしている方)

- 令和6年4月1日以降にすべての運転免許証を返納された方
- 返納時点で市内に住所を有していた方
- 運転免許証を有効期限内に返納された方

支援内容

交通系ICカード5,000円分
内訳(利用可能額4,500円+カード発行預り金500円)

申請手順

1. 住所地を管轄する警察署または、三重県運転免許センターで免許証の返納手続きを行い、[申請による運転免許の取消通知書](無料)または、「運転経歴証明書」(1,100円の手数料は自己負担)を受け取る。
2. 四日市市役所(6階)道路管理課へ申請する。

提出書類 ● 申請書(このチラシの裏面をご利用ください)
● 申請による運転免許の取消通知書)または、「運転経歴証明書」
※ 申請を代理人が行う場合、「代理人の本人確認書類」(裏面をご確認ください)

提出先 四日市市役所6階 道路管理課

注意事項 交通系ICカードの交付は、1人1回限りです。

お問い合わせ先：四日市市役所道路管理課 交通安全係 ☎：354-8154

モビリティマネジメントの実施

市内の交通に関わる関係者が一丸となって、新型コロナウイルス感染症の影響によって減少した公共交通利用者の回復に向けて、モビリティマネジメントを実施。

●実施結果

■バスの乗り方教室の実施

実施日：①令和5年8月 ②令和5年10月 ③令和6年9月
参加人数：①79人 ②23人 ③22人
協力：①三岐鉄道(株) ②③三重交通(株)

■バスの日利用啓発

実施日：令和5年9月20日
令和6年9月20日
啓発グッズ配布数：300個

■環境フェアへの出展

実施日：令和5年12月、令和6年12月
啓発グッズの配布数(令和6年)：84個
参加人数(令和6年)：520人

■市広報の掲載

実施日：令和5年4月上旬
内容：近年の公共交通施策の紹介や公共交通の利用を促進する特集ページを掲載。

■交通事業者等による取組

内容：交通事業者を始めとした協議会委員の皆様が独自に、小学校と連携した乗り方教室や、沿線ウォーキングイベント等の利用促進を実施。

●結果の考察及び今後の展望

新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したことにより令和5年度以降、積極的にイベント等を実施できるようになり公共交通の利用者数も増加傾向である。



3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

目標	目標			達成状況	考察
	現状値	中間目標値	目標値		
目標① 公共交通利用の促進	令和2年	令和9年	令和16年	令和4年度 (最新値)	
鉄道・バス・タクシーの年間利用者数	25,068,418人/年	29,499,800人/年	32,665,000人/年	中間目標値 達成 29,550,440人/年	令和4年度は、令和2年度より17.9%増加している。新型コロナウイルス感染症の影響を受け減少した利用者が、行動規制の緩和によって、利用を再開したと考えられる。
目標② 中心市街地への公共交通での来訪促進	令和2年	令和9年	令和16年	令和4年度 (最新値)	
四日市市中心市街地における1日当たり公共交通利用者数	25,121人/日	30,440人/日	34,240人/日	中間目標値 未達成 29,865人/日	令和4年度は、令和2年度より18.9%増加している。新型コロナウイルス感染症の影響を受け減少した利用者が、行動規制の緩和によって、利用を再開したと考えられる。
目標③ 市内の公共交通ネットワークの確保	令和2年	令和9年	令和16年	令和5年度	
基幹的公共交通の徒歩圏人口カバー率	60.0%	62.4%	65.2%	中間目標値 達成 63.1%	基幹的公共交通が維持された中で、市街化区域内の住宅のマンション建設など住宅の供給が増加したためと考えられる。
目標④ 運輸部門の脱炭素化の推進	令和元年	令和9年	令和16年	令和2年度 (最新値)	
運輸部門における四日市市域の二酸化炭素排出量	713千t-CO2	—	406千t-CO2	目標値 未達成 647千t-CO2	電気自動車など、省エネに対応した車両が増加したことや、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり移動規制があったことなどが要因として考えられる。
目標⑤ 地域公共交通に対する市民満足度の向上	令和3年	令和9年	令和16年	令和5年度	
市内の公共交通に対する不満度	27.2%	23.6%	20.0%	中間目標値 未達成 28.8%	市内の公共交通に対する不満度は、増加している。令和5年度市政アンケートでは、高齢者が使いやすい公共交通環境の整備、免許返納後の交通手段の確保についてのご意見が特に多かった。

・ 地域内フィーダー系統確保維持補助金

事業概要	事業実施の適切性	目標・効果達成状況
こにゅうどうくんライナー（1系統） 県立総合医療センター～小山田病院	運行は計画どおりに実施した。	<ul style="list-style-type: none"> ● 1日あたりの利用者数 <ul style="list-style-type: none"> 【目標】 23人以上 【実績】 25.1人 【対目標値】 109% ● 収支率 <ul style="list-style-type: none"> 【目標】 7.0%以上 【実績】 7.0% 【対目標値】 100%

4. 【Act】 計画目標の達成に向けた今後の取組方針 の作成

計画目標	計画目標の現在の到達点	今後の取組方針	目標値の見直しについて
①	現状値から増加傾向であり、中間目標値を達成した。	引き続き、公共交通の利用促進を図る。 特にフィーダー系統である「こにゅうどうくんライナー」について、郊外の団地等と中心市街地を結ぶ役割を担うバス路線として、今後も運行を継続するために、乗車いただいた方に沿線商業施設の割引券を提供する企画等を令和7年度中に実施する。	中間目標値を令和4年度で達成したが、目標値の見直しについては、計画を開始して1年経過したところであるため、今後の状況を見て検討する。
②	中間目標値の達成に向け、順調に増加している。	バスタ事業と合わせ、中央通り再編事業が本格化しており、引き続き中心市街地全体で、公共交通を便利に使える交通拠点の整備を進める。その中で、まちなかの回遊性を高めるために、自動運転の実証実験を続け、中央通り再編事業完了後（令和9年度以降）の定常運行を目指す。 また、令和7年度以降、公共交通の利用によりインセンティブをつけるような、MaaSの活用を検討し、公共交通への転換を図る。	目標値の達成に向け、順調に推移しているため、目標値の見直し予定はない。
③	現状値から増加傾向であり、中間目標値を達成した。	市内の商業施設等と連携し、基幹公共交通へ快適に乗り継ぎができる交通拠点の整備の検討を進めると共に、バス路線の再編を検討する。令和7年度以降、イオン四日市尾平店への乗継拠点の整備等を予定している。 また、交通空白地域の解消のため、令和6年11月より、AI活用型デマンド交通の実証実験を一部地区で開始した。令和7年度も実証実験を予定しており、実装に向け取組みを進める。	中間目標値を令和4年度で達成したが、目標値の見直しについては、計画を開始して1年経過したところであるため、今後の状況を見て検討する。
④	現状値から減少傾向である。	今後もEVバス等の導入に向けて、市で支援を実施する。 また、引き続き環境に優しい公共交通を利用していただくよう、利用啓発を実施する。	目標値の達成に向け、順調に推移しているため、目標値の見直し予定はない。
⑤	中間目標値未達成であり、令和3年度から横ばい傾向である。	引き続き、モビリティマネジメントを実施する他、市政アンケートでは、高齢者が使いやすい公共交通環境の整備、免許返納後の交通手段の確保についてのご意見が多かったことから、福祉部局と連携をしながら、取組みを進める。その他、ハード整備も含め上記の施策を進める。	横ばい傾向ではあるが、計画を開始して1年が経過したところであるため、目標値の見直しについては、今後の状況を見て検討する。

・地域内フィーダー系統確保維持補助金

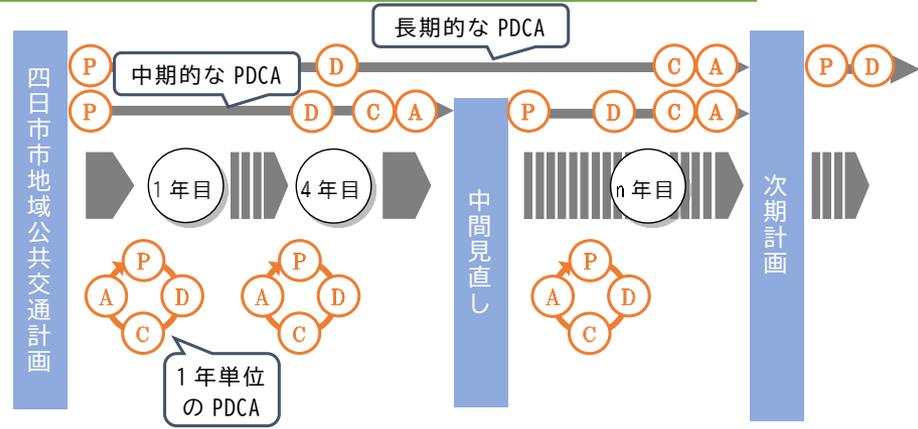
現在の到達点	事業の今後の改善点
目標を達成した。	<ul style="list-style-type: none"> 更なる利用者増加を図るため、利用者に対して沿線の大型商業施設内で使用できる買い物割引券を配布し乗車を促すような、取組みを実施する。（市、交通事業者、商業施設） 更なる利便性向上のため必要に応じてダイヤ変更を実施する。（市、交通事業者） 令和4～5年度に実施した利用促進イベントについて、内容や周知方法を工夫し、より多くの方に参加いただけるよう引き続き実施する。（市、交通事業者）

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	引き続き、関係者との連携・共創の下、商業施設と連携した利用促進イベントなど、地域の方々に知ってもらい乗ってもらえるようなきっかけ作りにつながる取組の検討や実施を期待します。	利用促進イベント「こにゅうどうくんライナーで健康&お買い物ツアー」を昨年度から引き続き、令和6年3月21日に実施した。	利用者増加を図るため、利用者に対して沿線の大型商業施設内で使用できる買い物割引券を配布し乗車を促すような、取り組みを実施する。
前々回	乗り継ぎ拠点でのモビリティマネジメントの実施を期待します。	乗り継ぎ拠点に設置しているバス待合室の窓に、バス利用を促す標語を設置し、国道1号や拠点施設の利用者にも見てもらうことでバス利用を啓発している。	バス待合室に、ポスター掲示及びチラシ配架スペースを活用して、公共交通の利用啓発を促す。
	利用促進イベントで得られた意見等を踏まえ、今後も利用促進イベントを企画・実施することにより利用者増加に繋がることを期待します。	利用促進イベント「こにゅうどうくんライナーで健康&お買い物ツアー」を令和4年11月に2日間実施した。	高齢者だけではなく幅広い世代に向けて、公共交通の利用を促すPRイベントを企画・実施する。

※前回：令和6年3月21日、前々回：令和5年3月10日

6.計画・評価の推進体制

PDCAサイクルの実行イメージ



本計画で掲げた目標を確実に達成するため、継続的に取組を実施していく（Do）とともに、その取組結果を把握し評価し（Check）、問題点があれば見直しを検討し（Action）、新たな取組の計画を立てていく（Plan）という、いわゆるPDCAサイクルを実行していく。

PDCAサイクルは、計画期間全体（12年）を通じた長期的なもの、5年程度の中期的に実施するもの、毎年の取組や社会情勢の変化などを踏まえ1年単位に実施するもの、そして、それよりもさらに細かい期間（事業の実施単位など）で行う短期的なものの4種類を実施する。

四日市市地域公共交通活性化協議会の開催状況

令和5年度												令和6年度									
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
● 計画期間開始			①							②	令和6年度確保維持改善計画				③	④					⑤

会議名	開催日	主な議題
① 第17回四日市市都市総合交通戦略協議会及び第13回四日市市地域公共交通活性化協議会 合同会議	令和5年6月29日	【協議事項】 令和6年度確保維持改善計画(フィーダー系統)の認定申請について
② 第18回四日市市都市総合交通戦略協議会及び第14回四日市市地域公共交通活性化協議会 合同会議	令和6年1月19日	【協議事項】 令和5年度確保維持改善計画(フィーダー系統)の事業評価について
③ 第19回四日市市都市総合交通戦略協議会及び第15回四日市市地域公共交通活性化協議会 合同会議	令和6年6月25日	【協議事項】 令和7年度確保維持改善計画(フィーダー系統)の認定申請について
④ 第16回四日市市地域公共交通活性化協議会	令和6年8月8日	【協議事項】 四日市市地域公共交通計画(令和5年度)の評価について 【意見聴取】 四日市市地域公共交通計画の計画期間延伸及び見直しについて
⑤ 第17回四日市市地域公共交通活性化協議会	令和6年12月26日	【協議事項】 令和6年度確保維持改善計画(フィーダー系統)の事業評価について 四日市市地域公共交通計画の改定について

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年12月26日

協議会名: 四日市市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
三重交通株式会社	こにゅうどうくんライナー(1系統) 県立総合医療センター～小山田病院	【評価対象期間における前回の評価結果を受けての対応状況】 ・商業施設と連携した利用促進イベントなど、地域の方々に知ってもらい乗ってもらえるようなきっかけ作りにつながる取組の検討や実施 →利用促進イベント「こにゅうどうくんライナーで健康&お買い物ツアー」を昨年度から引き続き、令和6年3月21日に実施した。 また、恒常的にこにゅうどうくんライナーに乗ってもらうために、利用者に対し沿線の大型商業施設内で使用できる買い物割引券を配布する企画について検討した。	A ・運行は計画どおりに実施した。	A ●1日あたりの利用者数 【目標】23人以上 【実績】25.1人 【対目標値】109% ・目標達成できた。 ●収支率 【目標】7.0%以上 【実績】7.0% 【対目標値】100% ・目標達成できた。	・更なる利用者増加を図るため、利用者に対して沿線の大型商業施設内で使用できる買い物割引券を配布し乗車を促すような、取り組みを実施する。(市、交通事業者、商業施設) ・更なる利便性向上のため必要に応じてダイヤ変更を実施する。(市、交通事業者) ・令和4～5年度に実施した利用促進イベントについて、内容や周知方法を工夫し、より多くの方に参加いただけるよう引き続き実施する。(市、交通事業者)

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和6年12月26日

協議会名:	四日市市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>・四日市市では、輸送力や定時性に優れる鉄道網を維持するとともに、バスやタクシー等の公共交通が相互に連携し、都市機能が集積する中心市街地を中心とした効率的な交通ネットワークの構築を目指している。</p> <p>・四日市平田線が近鉄四日市駅と鈴鹿市を南北に結ぶ幹線であり、イオンタウン四日市泊(乗り継ぎ拠点)で接続することにゆうどうくんライナーは、市南西部の住民の中心市街地、鈴鹿市方面へのアクセス手段を確保するため不可欠である。</p> <p>四日市市都市総合交通戦略及び四日市市地域公共交通計画に掲げる取り組みの方向に基づき、引き続き持続可能な魅力あるまちづくりに取り組む。</p> <p>【取り組みの方向(戦略)】</p> <ol style="list-style-type: none">①自由に移動し交流できる公共交通体系づくり②円滑な交通を支える道づくり③まちなかの賑わいづくり④市民・公共交通事業者・行政の連携づくり